

第153回くらしの植物苑観察会 2011年12月3日(土)

サザンカを殖やして楽しむ

箱田 直紀(恵泉女学園大学名誉教授)

今年もサザンカのシーズンがやってきました。

花の時期が近づくと園芸店やホームセンターなどに花の写真がつけられた苗が並びますが、売られているのはごく限られた品種で、会場に展示されているようなものはなかなか入手できません。

展示会で気に入った品種を見つけたら、その品種か、せめて似た花の苗を購入して帰れるような体制がとれるとよいのですが、まだしばらくはそのようなご要望には応えられそうもありません。

そこで、今回は、どこかでほしい花を見つけたら、繁殖の適期ではない冬でも挿し木で殖やすための要領と、種から育てて、自分だけの新しい花を作り出す種まきの方法についてお話します。

1. サザンカは冬でも挿し木ができる

ツバキやサザンカの挿し木の適期は、春から伸びてきた新梢の伸長が停止した6月中旬から梅雨明けの7月といわれてきましたが、挿す枝の工夫や挿し床の条件次第で、原則としては一年中挿し木が可能です。とくにサザンカの場合は花をみてそれを殖やしたいと思うのは冬のことが多く、夏まで待ってその樹がわからなくなったり、または忘れてしまうことも多いので、最適期ではなくても花を確認したときに挿し木をしてみてください。挿し穂の作り方は夏の挿し木と同じで、図のように葉を3枚ほどつけますが、挿し床はポリ袋やペットボトルを半分に切ったものなどで密封して室内や軒下で管理し、植え替えは次の秋以降に行います。

2. サザンカを種子から育てる

優雅な名前がつけられて会場に展示されているサザンカの大部分は、交配などによって意識的に改良されたものではありません。自然に稔った種子から発芽した株の中からたまたま見つけだされた美しい花に名前がつけられ、挿し木や接ぎ木で殖やされたものです。八重咲き品種などは実つきが良くないものもあり、発芽から開花までに普通は6~7年を要しますが、種子から育てると親とは違った自分だけの新しい花のサザンカが生まれます。

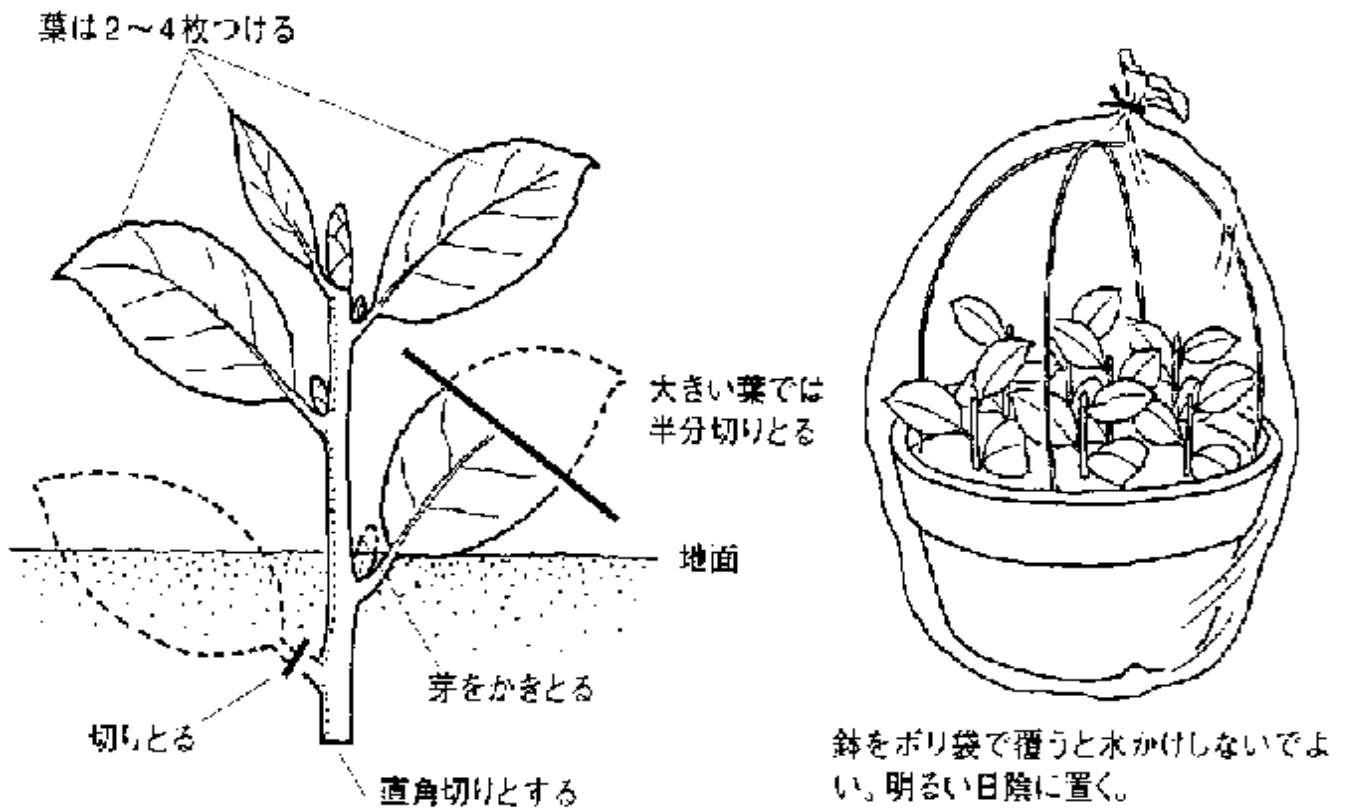
ただし、ツバキやサザンカの種子は完全に乾燥すると発芽しなくなります。結実期の9~10月に枝から採ったり、親株の下から拾ったら、出来るだけ早く鉢などにまきつけるか、少し濡らした砂や水ゴケと一緒にポリ袋に入れて密封し、冷蔵庫内か土中30cmほどに埋めて貯蔵し、3月頃に鉢や床に植え付けます。

.....

次回予告 第154回くらしの植物苑観察会 2012年1月28日(土)

「祝いと厄除けの植物たち」 辻 誠一郎(東京大学大学院)

13:30~15:30(予定) 苑内休憩所集合 申込不要



サザンカのさし木